

研究班ウェブサイト「咀嚼指導のページ」の作成

研究代表者：安藤 雄一（国立保健医療科学院・口腔保健部）

研究要旨

研究班ウェブサイト「咀嚼指導のページ」を作成した。今後、内容の充実に努めるとともに双方向活用を検討していきたい。

A. 目的

本研究班で検討している内容には学際領域が多く、比較的多くの分野に関心が高い人たちは存在しているものの、数的にはそれほど多くなく、全体を俯瞰してみると、関心のある研究者や実践者は「散在している」という表現が近いように思われる。

こうした現状を踏まえると、Webサイトを構築して情報を発信することが有用と思われたので、これを構築することにした。

B. 方法

本研究班の最重要ミッションは「咀嚼指導マニュアル」の作成であることから、Webサイトの名称を「咀嚼指導のページ」とした。

サイトは、国立保健医療科学院のサーバに置くことにした。

C. 結果および考察

資料1に、本ウェブサイトのトップページを示す。URLは以下の通りである。

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/kk/index.html>

このページは、前述したように国立保健医療科学院のサーバに置かれており、国立保健医療科学院トップページ（<http://www.niph.go.jp/>）の下部の「情報提供・資料等」と題された部分にバナーが置かれている（資料2）。

代表的なコンテンツとして、研究班報告書を資料3に、過去2回（2010.2.22、2011.3.1）行った意見交換会の内容を資料4に示す。

このほかのコンテンツとして、「咀嚼指導マニュアル」¹⁾、「学術資料」、「リンク」「FAQ」が用意されている。

本サイトのコンテンツの内容は、まだまだ十分とは言えるものではないが、少しずつ充実を図っていききたい。

また、このウェブサイトは、一方向の情報発信だけでなく、ひとつのキーステーションとして双方向のやりとりが可能なかたちにしたいと考えている。その一環として、NIPH-WebQ の活用を図るなど、研究班で取り組んだ内容に興味を持った人たちが「立ち寄れる場所」を目指したい。

D. 結論

研究班ウェブサイト「咀嚼指導のページ」を作成した。今後、内容の充実に努めるとともに有効活用していききたい。

E. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

なし

G. 引用文献

- 1) 安藤雄一、柳澤繁孝、石濱信之、大津孝彦、青山旬、佐藤眞一、古田美智子、神崎由貴、深井穂博. 口腔機能に応じた咀嚼指導マニュアルの試作. In: 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業) 口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての研究(研究代表者: 安藤雄一(H21-循環器等(生習)-一般-012)、平成21年度 総括・分担研究報告書; 2010. 25-38頁.

報告書意見交換会学術資料咀嚼指導マニュアルリンクFAQ



咀嚼指導のページ

口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制
メタボリックシンドローム改善との関係についての研究

本サイトは、厚生労働科学研究費補助金「口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての研究」(研究代表者:安藤雄一)で作成したものです。
「早食い」や「かめないこと」は肥満やメタボリックシンドロームとの関連が高いことが知られていますが、本研究班では、「咀嚼」という口腔機能に着目し、肥満・メタボリックシンドローム対策につながる「咀嚼指導」を開発することを目標に掲げています。本サイトには、そのために役立つ学術情報や啓発資料など掲載していますので、興味のある方は御活用ください。



■ Information

● H21年度研究班報告書
平成22(2010)年度(研究班として1年目)の研究報告書(計152頁)が掲載されていて、全文をPDFを読むことができます。
[\[詳しくはこちらへ\]](#)

● 意見交換会(2010.2.22開催)
「咀嚼回数の測定法および肥満者に対する咀嚼指導法」などをテーマに研究班メンバー以外の研究者・実践者による意見交換会(2010.2.22開催)における各参加者の発表内容を見ることができます。
[\[詳しくはこちらへ\]](#)

● メタボリックシンドロームと歯科(保健の関連)
メタボリックシンドロームと歯科疾患・歯科保健の関連について、概要を知ることができます。[作業中]

資料2. 国立保健医療科学院Webサイトに置かれているバナー

The screenshot shows the homepage of the National Institute of Public Health (NIPH). A red arrow points to a banner area containing the following text:

東日本大震災に関する保健医療関連情報提供について

5月30日(月)開催「東日本大震災救援活動シンポジウム」

7月～9月中旬に開催予定の研修実施時期が変更となりました。(詳細はここをクリック)

Below this banner is a table of updates:

お知らせ	TOPICS	研修案内
更新情報		
2011/5/16	TOPICS	NEW! 5月30日(月)開催「東日本大震災救援活動シンポジウム」
2011/4/22	研修案内	NEW! 研修実施時期変更のお知らせ
2011/4/11	研修案内	NEW! 平成23年度「生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修(研修計画編)・(広域的事業評価編)」の実施延期について
2011/4/1	更新情報	NEW! 組織改正に伴いホームページをリニューアルしました。
随時更新	TOPICS	国立保健医療科学院における新型インフルエンザに関する活動
2011/2/4	研修案内	平成23年度専門課程Ⅲ 募集要項
2010/9/30	研修案内	平成23年度研修案内
2010/6/18	TOPICS	医師以外の職員の保健所長資格に係る本院が行う別表2に

At the bottom of the page, there is a grid of service icons. One icon, labeled "咀嚼指導マニュアル" (Chewing Guidance Manual), is circled in red. A red arrow also points to this icon from the banner area above.



資料3. 研究班報告書のページ

HOME 報告書 意見交換会 学術資料 咀嚼指導マニュアル リンク FAQ

▶▶▶ 咀嚼指導マニュアル

咀嚼指導のページ

口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制
メタボリックシンドローム改善との関係についての研究

研究班の報告書

▶▶ 平成21年度

[報告書全体(計152頁、9.8MB)]

A. 総括研究報告

[口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係\(安藤雄一\)](#)

B. 分担研究報告

1. 咀嚼法の一般集団に対する有用性の検証

- [歯科保健指導が肥満に及ぼす効果 一観音寺市における調査一\(柳澤繁孝、森田学、木村年秀、古田美智子\)](#)
- [口腔機能に応じた咀嚼指導マニュアルの試作\(安藤雄一、柳澤繁孝、石濱信之、大津孝彦、青山旬、深井穂博、古田美智子、佐藤真一、神崎夕貴\)](#)
- [早食いと咀嚼状況の関連・Web調査による検討\(安藤雄一、葎原明弘、伊藤加代子\)](#)

2. 咀嚼回数に関する基礎的検討

- [咀嚼回数に関する文献レビュー\(葎原明弘、伊藤加代子\)](#)
- [咀嚼回数に関する基礎的検討:咀嚼回数カウンターの開発\(花田信弘、塩澤光一\)](#)
- [咀嚼回数に関する基礎的検討:疫学調査の実施\(葎原明弘、伊藤加代子、岩崎正則\)](#)

3. 咀嚼機能が低下した人達に対する有効な食事栄養指導の方法論を確立

- [公衆栄養と地域歯科保健との連携に関する質的研究\(三浦宏子、佐藤加代子\)](#)
- [公衆栄養活動における歯科との連携の現状と課題に関する量的解析\(三浦宏子、佐藤加代子\)](#)

4. 「咀嚼回数の測定法および肥満者に対する咀嚼指導法等に関する意見交換会」報告(伊藤加代子)

C. 研究成果の刊行物・別刷

▶▶ 平成22年度

▶▶ 平成23年度

資料4. 意見交換会のページ

HOME 報告書 意見交換会 学術資料 咀嚼指導マニュアル リンク FAQ

▶▶▶ 咀嚼指導マニュアル

咀嚼指導のページ

口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制
メタボリックシンドローム改善との関係についての研究

意見交換会

- ・ 本研究班で検討している内容に関連する研究および実践活動を行っている有志の方々にお集まりいただき、研究班メンバーと意見交換会を2回行いました(2010.2.22、2011.3.1)。

▶▶▶ 研究班主催の意見交換会(2011.3.1)

- ・ 本意見交換会の概要 [\[クリック\]](#)

1. 主旨説明: 口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての研究:
安藤雄一(国立保健医療科学院・口腔保健部) [\[クリック\]](#)
2. 咀嚼指導マニュアルの意義と現状: 石濱信之(三重県伊勢保健福祉事務所) 深井稯博(日本歯科医師会)
・ 口腔機能に応じた咀嚼指導のフローチャート(案) [\[クリック\]](#)
・ 咀嚼指導マニュアル=食べ方からのアプローチ= [\[クリック\]](#)
3. 関係者による発表
 - 1) 厚労科研フィールドとしての現状報告: 橋本直子 村田恵美(三重県 大台町役場 健康ほけん課) [\[クリック\]](#)
 - 2) 特定保健指導に歯科教室を取り入れて: 城田圭子(三重県菟野町役場) [\[クリック\]](#)
 - 3) 栄養と歯科と連携した事業の取組報告: 足立保健所健康づくり課 [\[クリック\]](#)
 - 4) 「歯周疾患検診」と「特定健康診査」との壁・その打開策は?: 高澤みどり(市原市保健センター) [\[クリック\]](#)
 - 5) 地域高齢者の咀嚼機能調査を行って解ったこと: 富永一道(富永歯科医院)、島根県邑南町保健課 [\[クリック\]](#)
 - 6) 産業歯科保健との関わり: 加藤 元(日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科) [\[クリック\]](#)
 - 7) 新潟県での成人歯科健診の取り組み: 佐藤徹(新潟県歯科医師会): [\[クリック\]](#) [\[クリック\]](#)
 - 8) 日歯が提唱する新しい成人歯科健診との関わり: 池主憲夫(日本歯科医師会 常務理事) [\[クリック\]](#)
 - 9) 平塚市の栄養・歯科保健事業について: [\[クリック\]](#)
 - 10) 保健衛生部門における歯科・栄養事業の概要と連携状況: [\[クリック\]](#)

▶▶▶ 研究班主催の意見交換会(2010.2.22)

- ・ 本意見交換会の概要は、平成21年度の報告書にも記されています。 [\[クリック\]](#)

1. 咀嚼回数に関する文献レビュー: 伊藤加代子(新潟大学医歯学総合病院・加齢歯科診療室) [\[クリック\]](#)
2. 早食い・満腹まで食べることと肥満との関連: 丸山広達(大阪大学大学院・医学系研究科・公衆衛生学) [\[クリック\]](#)
3. 応用行動分析学を応用した減量プログラムの試み: 白土孝子(万有製薬株式会社・健康管理センター) [\[クリック\]](#)
4. 咀嚼と栄養・食生活: 柳沢幸江(和洋女子大学・家政学群・健康栄養学類) [\[クリック\]](#)
5. ビデオによる幼児の咀嚼回数の測定: 松山順子(新潟大学歯学部・小児歯科学講座) [\[クリック\]](#)
6. 食品物性と咀嚼量: 神山かおる(食品総合研究所・食品物性ユニット) [\[クリック\]](#)
7. 早食いと食品による窒息予防の関連: 弘中祥司(昭和医科大学歯学部・口腔衛生学教室) [\[クリック\]](#)
8. 食べる速さに関する研究の主な結果: 大塚 礼(名古屋大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学) [\[クリック\]](#)